

研究タイトル：

中世及び中近世移行期における地方貨幣史

氏名：	小早川裕悟／Yugo Kobayakawa	E-mail：	kobayakawa@gifu-nct.ac.jp
職名：	講師	学位：	博士(経済学)
所属学会・協会：	地方史研究協議会、出土銭貨研究会、北陸史学会 ほか		
キーワード：	貨幣史、出土銭貨、アジア史、日本史、地方史		
技術相談 提供可能技術：	<ul style="list-style-type: none"> ・中世及び中近世移行期における貨幣経済の解明 ・中世及び中近世移行期に流通していた金・銀・銭の連関性 ・精銭・悪銭が中世及び中近世移行期の社会に与えた影響 		

研究内容： 中世及び中近世移行期における地方の通貨事情の実態解明

本研究は、中世及び中近世移行期(14世紀～17世紀初頭)における通貨の流通状況を解明することに主眼を置いたものとなっています。これまでの貨幣史研究は、戦前より多種多様な観点から研究が進められてきましたが、文献史料が充実している京都や堺、博多などの中世主要都市圏の通貨事情に着目した研究がほとんどとなっており、文献史料の少ない中世主要都市以外の地方の通貨事情については見落とされてきた経緯があります。

そのため、本研究では、貨幣史においても特に先行研究の蓄積が少ない地方の通貨事情の解明を目的としています。上述の通り、現状においては、地方には残されている文献史料が少ないという状況となっており、その不足分を補うため、遺物として遺跡の発掘調査として確認される出土銭貨という考古学の研究成果を文献史料に融合し、論を展開していくという研究手法を採用しています。この研究手法により、文献史料からは通貨事情の変遷を、出土銭貨からは当時に流通していた流通銭の実態に言及することが可能となり、地方の通貨事情の解明に取り組んでいます。

本研究における研究対象地域は、北海道や東北地方、四国地方、北陸地方などの中世主要都市が存在していなかった地域としています。単に地方の通貨事情の実態を明らかにするのではなく、地方は全て同じ通貨事情を形成しているのではないと想定されるため、地方と主要都市の比較・検討だけではなく、地方同士の比較・検討を行うことにより、それぞれの地方の経済状態に応じた通貨体制が構築されていたことを明らかにすることを意識しています。

さらに、研究対象は、中国からもたらされてきた中国銭(銅銭)だけではなく、中国銭よりも高額貨幣として機能していた金・銀についても研究対象としています。中世及び中近世移行期における通貨事情は、低額貨幣である銅銭と高額貨幣である金・銀の棲み分けができていると考えられています。そのため、金・銀・銭の連関性についても明らかにする必要があるため、この三者の関係性にも着目した研究にも取り組んでいます。

以上の内容は、日本だけではなく、中国銭の供給拠点であり、中世アジアの経済上の最大拠点であった中国にも同じような問題点が指摘できます。そのため、中国の地方の通貨事情や地方における金・銀・銭の連関性にも言及する必要性があります。本研究では、日本だけの一国史にとどまることなく、中世日本と同様に、中国銭(銅銭)を国内の正規通貨として使用していた朝鮮やベトナムといったアジア各国における通貨事情の解明を行い、地方も包括したアジア全域における通貨事情の全容解明を最終的な目標としています。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	